

GO GLOBAL

AVANT

第19期報告書

2014.7.1 - 2015.6.30

Photographed by Yukio Mikata



INTERVIEW

アバントがグローバル市場で戦うために、今後、必要な力とは

社外取締役
ジョルジュ・ウジュー

1945年生まれ。ソシエテジェネラル銀行やモルガンスタンレー証券などで要職を経て、ニューヨーク証券取引所の国際部門・リサーチ部門の責任者を務める。現在は自ら設立したコンサルティング会社の会長兼CEOとして活躍。

代表取締役社長
森川 徹治

1966年生まれ。大手外資系コンサルティング会社に入社し、そこで体得したノウハウをより多くの企業に提供したいと考え、時代のニーズが高まる「連結会計のパッケージソフトウェア」を事業化し、1997年に当社を設立。

社外取締役がもたらすガバナンスと経営力の強化

森川 アバントが社外取締役制度を導入したのは、コーポレート・ガバナンスの強化や、経営の透明性・客観性の向上はもちろん、私を含めた経営層が成長機会を得るためでもあります。というのも、私たちには「世界に通用するITベンチャー」を目指すという「想い」はあるものの、グローバル市場でのビジネス経験はありません。そのギャップを埋めるため、国際金融市場で豊富な経験をもつウジュー氏を招聘したのです。

ウジュー 森川社長とは以前からのパートナーですが、「新たな成長の機会」と「革新をもたらす技術・発想」を

常に探している方だと評価しています。アバントは今、新たな成長に向けて海外市場への飛躍を考えており、そこで必要となる「グローバルに通用する技術」と「海外市場でのパートナー」を探し求めています。私が培ってきた経験やノウハウ、人脈などが、それらを獲得するうえで役立つことでしょう。アバントが世界へと翼を広げていく過程に参画し、その成長を間近で見られることを楽しみにしています。

森川 社外取締役を選定するにあたって重視したのが、アバントという会社を理解していただけるかどうか、でした。そうでなければ、深いコミュニケーションや的確

なアドバイスは望めないからです。その点、ウジュー氏は1年間にわたってアドバイザリー契約を結ぶなど、以前から私たちの事業を支援いただいており、現状や課題を把握したうえで、さまざまなアドバイスをいただいています。実際、ウジュー氏が参加するようになって、取締役会のあり方が大きく変わっており、議論に曖昧さがなくなるとともに、形式的な決議よりも具体的な戦略について議論が中心になっています。

ウジュー アバントの取締役会では、経営トップが皆の議案を見るという日本企業に典型的な形ではなく、トップが出した原案をもとにディスカッションし、全員の納得が得られるまで深く議論しています。これにより、森川社長や私を含め、取締役一人ひとりの視点から会社の戦略や施策を検証でき、より良い結論を導くことにつながっています。

レポーティング・オートメーションへの需要の高まりを追い風にして

森川 ウジュー氏とのディスカッションで印象に残っているのが、「一芸に秀でた会社でなければ世界には通用しない」という言葉です。では、アバントの一芸とは何かと言えば、やはり「連結会計業務のオートメーション化」という独自のビジネスモデルに他なりません。これに磨きをかけ、世界市場に通用するソリューションへと育てていくことが当面の目標です。

ウジュー アバントが提案するレポーティング・オートメーションは、今後、世界的な潮流になっていくでしょう。私はニューヨーク証券取引所で、いくつもの企業が上場廃止となるのを見てきましたが、多くの場合、原因はCEOが「会計数字」を読み間違えたことにありました。CEOに報告されるまでに、多くの人手を介することで、数字にさまざまな「判断」や「解釈」が入り込むからです。レポーティング・オートメーションによって会計業務を自動化することで、こうしたリスクを回避し、経営品質を高めることが可能になると考えています。

森川 そう言っていただけると心強いですね。これまで、企業の間には「会計業務を外部に任せる」という発想が浸透していませんでしたが、決算数値の多様化による業務負担の増大や、ホワイトカラーエグゼンプションを背景としたアウトソーシングの推奨、さらには粉飾決算など不祥事の頻出を背景に、企業経営者の意識が変わり始めています。こうした環境変化を追い風に、アウトソーシングとソフトウェアの両面からレポーティング・オートメーションを提案することで、「世界に通用するITベンチャー」への成長を実現していきたいと考えています。

株式情報 (2015年6月30日現在)

| | |
|----------|------------------------|
| 株式の状況 | |
| 発行可能株式総数 | 7,788,000株 |
| 発行済株式の総数 | 4,694,000株(うち自己株式227株) |
| 株主数 | 615名 |

大株主 (上位10名)

| 株主名 | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|---------------------------|-----------|---------|
| 森川徹治 | 1,700,000 | 36.22 |
| アバント従業員持株会 | 527,700 | 11.24 |
| 野城剛 | 327,200 | 6.97 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 269,600 | 5.74 |
| 株式会社オービックビジネスコンサルタント | 200,000 | 4.26 |
| ピーシーエー株式会社 | 194,600 | 4.15 |
| 株式会社SBI証券 | 167,600 | 3.57 |
| 和田成史 | 89,200 | 1.90 |
| 鈴木邦男 | 76,600 | 1.63 |
| 森川敬之 | 70,000 | 1.49 |

(注)持株比率は自己株式(227株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

| | | |
|-----------------------|---------|------------|
| 発行済株式総数 4,694,000株 | 個人・その他* | 3,690,464株 |
| | その他国内法人 | 437,200株 |
| | 金融機関 | 273,400株 |
| | 証券会社 | 207,036株 |
| | 外国人 | 85,900株 |

*自己株式227株は個人・その他に含まれます。

会社概要 (2015年9月25日現在)

| | |
|-----|--|
| 社名 | 株式会社アバント |
| 所在地 | 東京都港区港南二丁目15番2号 |
| TEL | 03-6864-0100(代表) |
| 設立 | 1997年5月26日 |
| 従業員 | 542名(連結) |
| 資本金 | 2億8,840万円 |
| 子会社 | 株式会社ディーバ 株式会社インターネットディスクロージャー 株式会社ディーバビジネス・ソリューション 株式会社ジール DIVA CORPORATION OF AMERICA |

取締役

| | | | | |
|---------|------------|-------|-------|------|
| 代表取締役社長 | 森川 徹治 | 監査役 | 常勤監査役 | 野城 剛 |
| 取締役 | 春日 尚義 | 社外監査役 | 鈴木 邦男 | |
| 社外取締役 | 福谷 尚久 | 社外監査役 | 小林 正憲 | |
| 社外取締役 | ジョルジュ・ウジュー | | | |

株主メモ

| | |
|---------|---|
| 事業年度 | 毎年7月1日から翌年6月30日まで |
| 定期株主総会 | 事業年度末日の翌日から3ヵ月以内 |
| 基準日 | 6月30日 |
| 上場市場 | 東京証券取引所 JASDAQ(グロース) |
| 証券コード | 3836 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主名簿管理人 | 三井住友信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話0120-782-031(フリーダイヤル) |

公告の方法

電子公告により行います。
https://www.avantcorp.com/ir/stocks/koukoku.html
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることが出来ない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

中期経営計画の3ヶ年で培った基盤のもと、グローバルな成長を目指す新たなステージへ

2015年6月期は、3ヶ年の中期経営計画の最終年度となりました。計画に掲げた目標数値については、トップラインはやや未達成ながら利益面では達成でき、計画の主眼である“規模の成長”は実現できたと考えています。

この3ヶ年を通じて事業規模を拡大していくなかで、当社グループのビジネスモデルの根幹をなす「会計数字」の重要性を肌で感じることができました。また、2013年10月に持株会社制へと移行し、ガバナンス体制の整備や経営力の向上など、連結グループ企業が直面するさまざまな課題を自ら経験できたことが、今後、お客様にソリューションを提案するうえで貴重な財産となるはずで

す。昨今、投資市場において企業のガバナンス強化を求める声が強まるなか、当社グループが提案する「連結会計のオートメーション化」への期待の高まりをあらためて感じています。そこで、次の経営計画は2018年6月期までの3ヶ年の計画とし、独自のソリューションに磨きをかけることで、一芸に秀でた「世界に通用するITベンチャー」へと成長し、ビジョンとする「100年企業」の実現を目指します。

また、規模の拡大が実現できたことを踏まえて、世界市場へ挑戦するための商品開発を本格化するのみならず、当社グループを支えていただいた株主の皆様への利益還元を強化していく方針であり、具体的には5年間で配当額を3倍にする計画です。今後も当社グループの成長にご期待いただくとともに、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長

森川 徹治



| | 2012年6月期 | 2013年6月期 | 2014年6月期 | 2015年6月期 | 2018年6月期(目標) |
|----------|----------|----------|----------|----------|--------------|
| 売上高 億円 | 41.0 | 67.3 | 83.0 | 89.2 | 117.4 |
| 営業利益 億円 | 4.1 | 6.4 | 10.8 | 8.0 | 13.6 |
| 営業利益率 % | 10.0 | 9.6 | 13.1 | 9.0 | 11.6 |
| 経常利益 億円 | 3.8 | 6.2 | 10.7 | 7.9 | 13.5 |
| 当期純利益 億円 | 1.9 | 3.6 | 6.2 | 4.0 | 8.1 |
| ROE % | 13.2 | 21.3 | 28.7 | 15.5 | 18.6 |
| 配当額 円* | 4.0 | 9.0 | 27.0 | 18.0 | 36.0 |

* 2013年11月1日付で、株式1株につき2株の株式分割を行っております。

ホームページのご案内

www.avantcorp.com

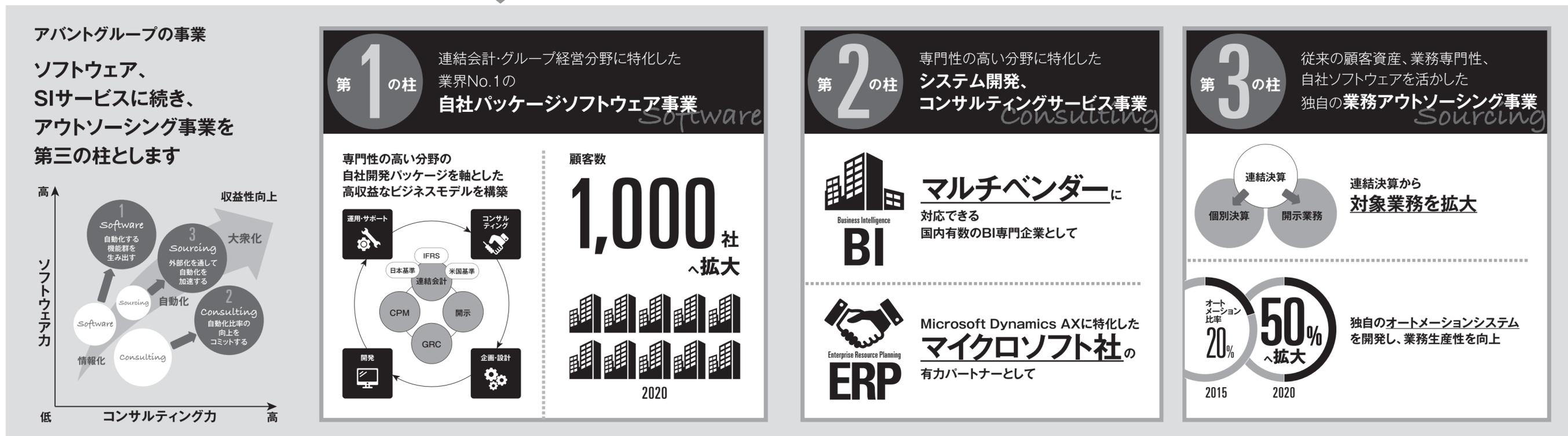
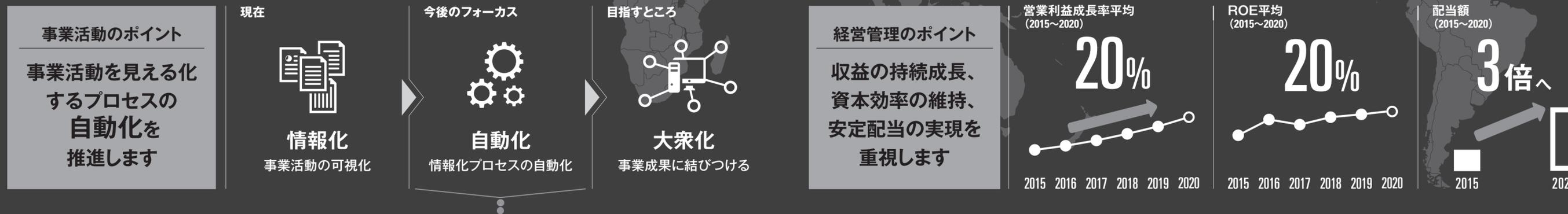
www.avantcorp.com/ir/



アバントグループは 経営が変わる情報を つくります

私たちはお客様の経営を変えることはできません。お客様の経営をよくすることもできません。しかし、事業活動の実態を必要としている人々に、正確かつ適切に伝える手段を提供することはできます。そして、そこから生まれる価値のある情報によって、経営が変わるきっかけをつくることができると考えています。

アバントグループは、グループ経営を見える化する連結会計のディーバ、様々な事業活動を見える化する情報活用のジール、グループ会社の活動を見える化するERPのDBI、すべての上場企業の活動を見える化する開示情報活用のインターネットディスクロージャーがそれぞれの専門性を活かし、企業経営が変わる情報をつくることに邁進いたします。



ガバナンスの強化 マネジメント力の強化 情報開示の強化 お客様の企業価値向上へ

アバントグループは企業のナレッジワーカーとしての**CFO部門を支援する、唯一無二の存在へ**